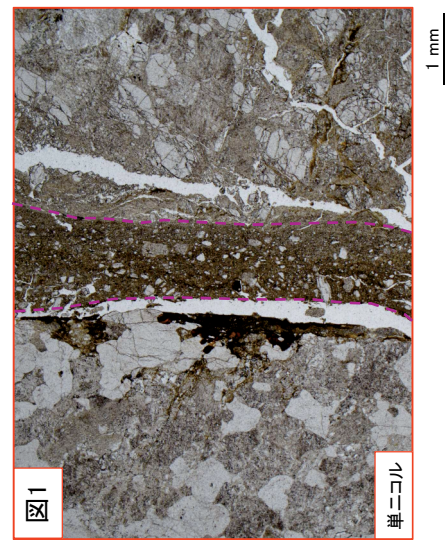
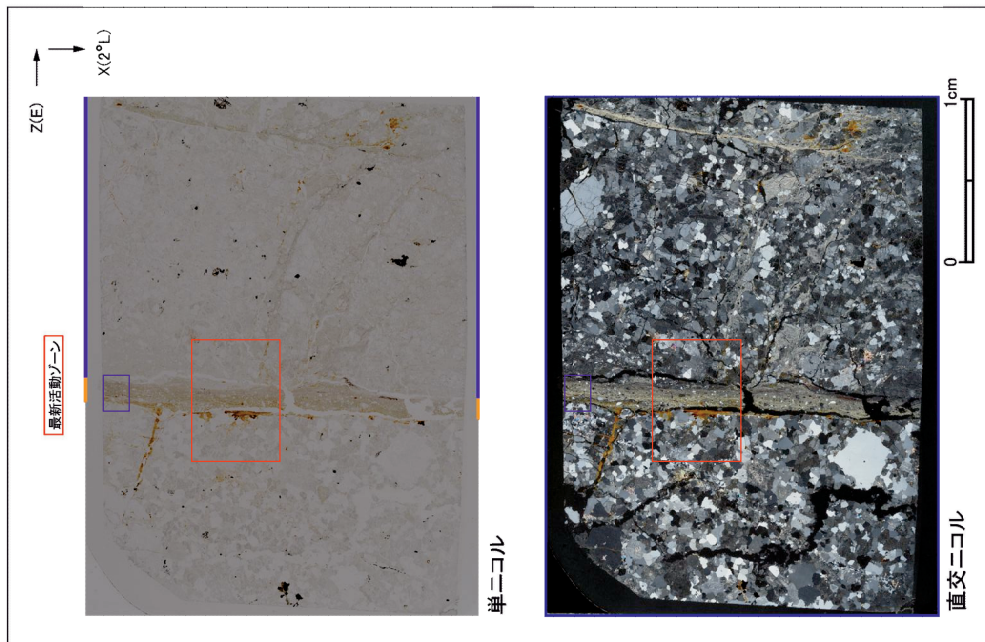
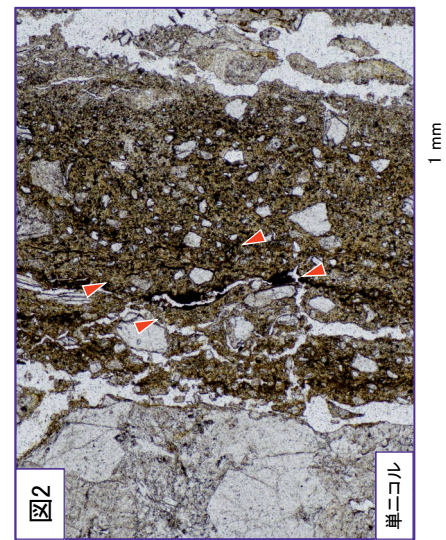


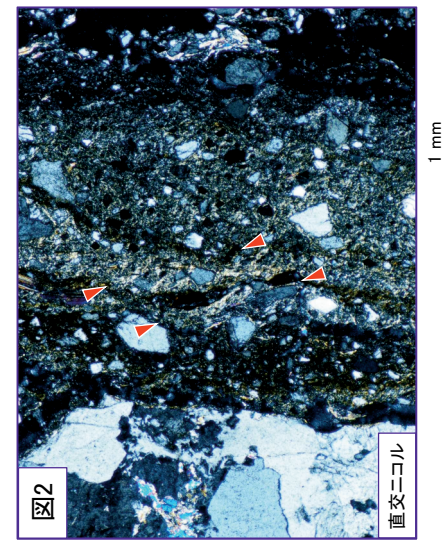
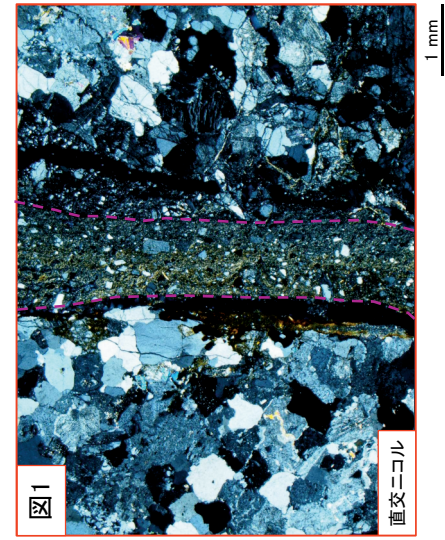
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1, 2)
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1, 2)
- 岩片は少ない。(図1, 2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1, 2)



破線は粘土状部の分布を示す



赤三角は岩片・粘土鉱物の定向配列を示す



第7.4.4.361図 (4)

破碎部性状 H24-B14-1 深度76.94~77.03m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度76.94m)

- 深度76.94mには淡黄色粘土脈を挟在している。幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、粘土は軟質で、連続性は一部で不明瞭になるが、直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された淡黄色粘土脈は、その特徴から断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	フィルム状	無

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。



- ・深度82.59～83.71mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質～硬質で、含まれる細粒部は一部で網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度83.66mには明赤灰色粘土を挟んでいる。粘土はやや軟質で、連続しているが、一部境界が不明瞭で直線性に乏しいため、変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。
- ・深度83.71mには淡黄色粘土を挟んでいる。粘土はやや軟質で、連続しているが、幅が膨縮し、直線性に乏しいため、変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。

ボーリング柱状図

●82.59～83.71m：破砕部  
 82.59～83.71m：粘土混じり礫状部（Hj）  
 上端20°で不明瞭、下端54°でシャープ。下端には幅1～5mm程度で膨縮するやや軟質な淡黄色粘土を伴う。上下位に比べて軟質となる。  
 特に83.25～83.71mでは全ての長石類が変質し、網目状の灰白色粘土が不規則・不連続に分布し、軟質（硬さE）となる。原岩の組織はわずかに残るが、割れ目は消滅し、識別できない。灰赤色を呈する。  
 83.66mに傾斜55°で幅2mmのやや軟質な明赤灰色粘土を挟む。連続しているが、一部境界が不明瞭で直線性に乏しい。

コア写真



凡例  
 ← → 破砕部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載

淡黄色粘土は膨縮し直線性に乏しい

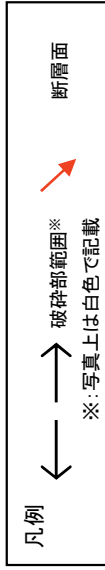


明赤灰色粘土は境界が不明瞭で直線性に乏しい

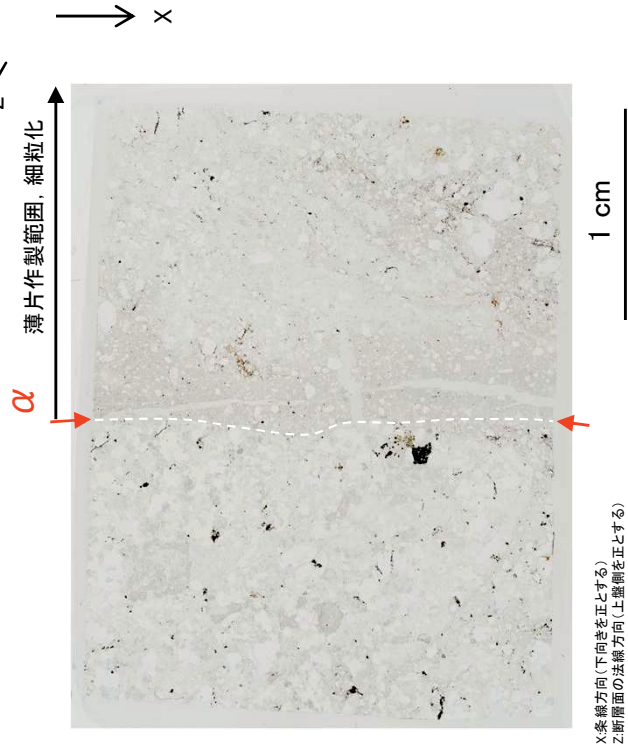
・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



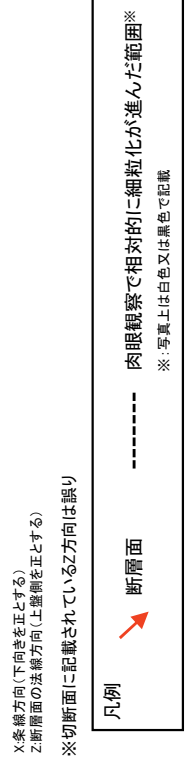
薄片全景写真(単ニコル)



薄片作製位置写真



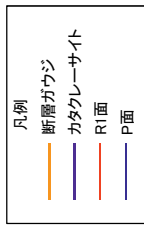
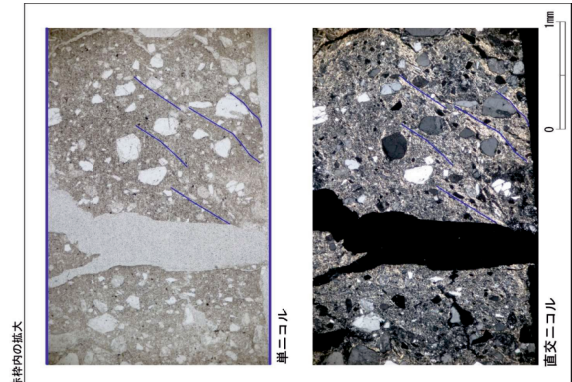
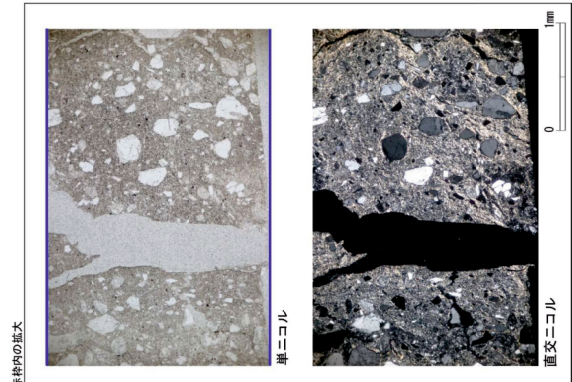
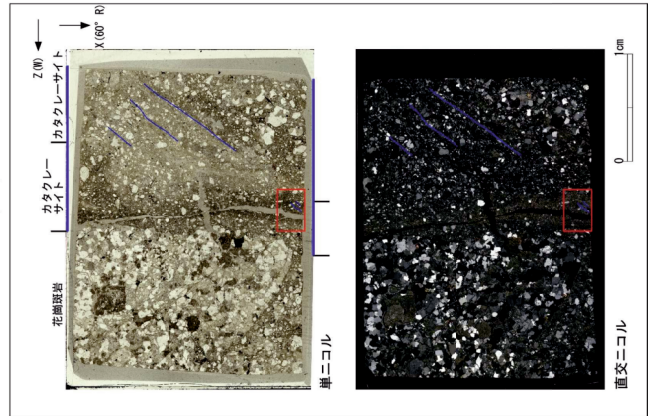
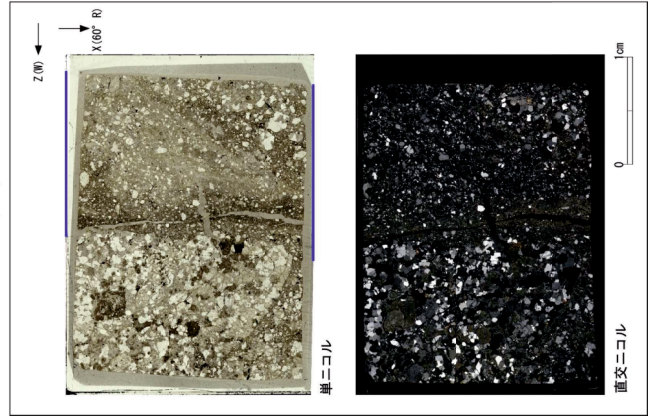
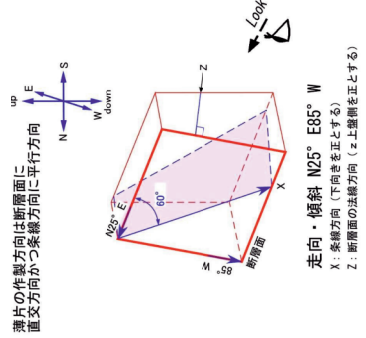
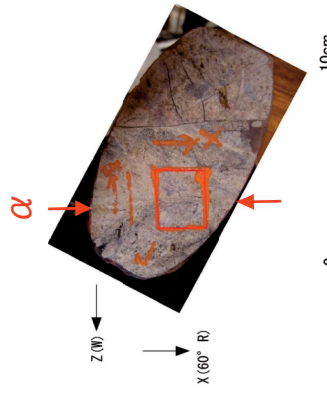
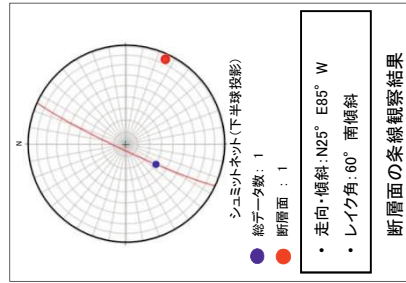
薄片作製位置





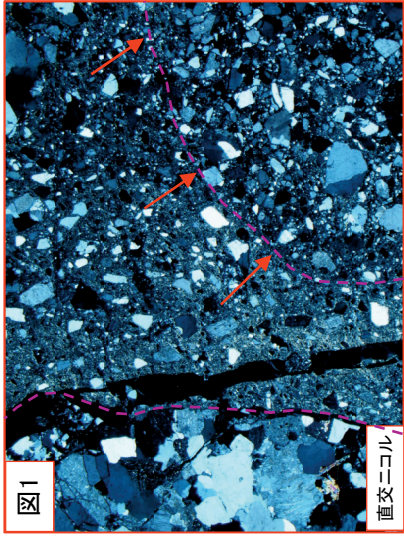
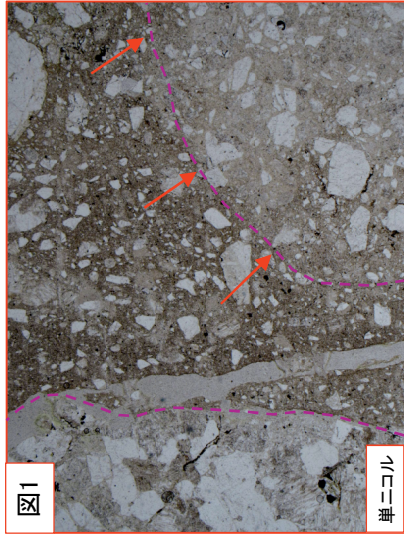
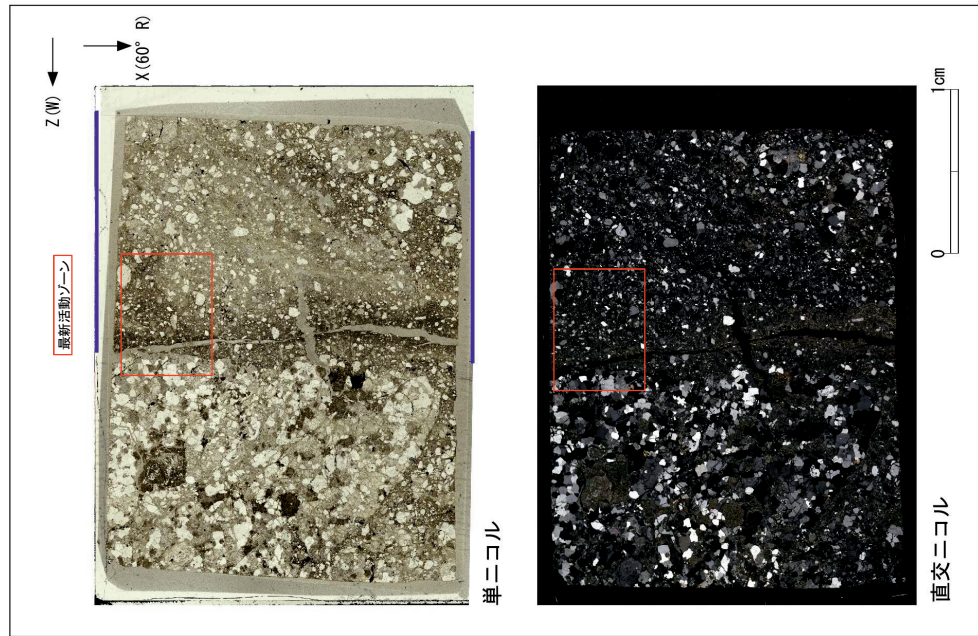
- ・ H24-B14-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う正断層成分が卓越する。
- ・ 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトからなる破砕部であると判断した。
  - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - (カタクレーサイト) 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
  - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



第7.4.4.362図 (3) 破砕部性状 H24-B14-1 深度82.59~83.71m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分 (1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図1)



赤矢印は粘土鉱物の分布は漸移的に変化することを示す  
破線は粘土状部の分布範囲を示す



(肉眼観察結果 深度83.66m)

- 深度83.66mには明赤灰色粘土を挟在している。粘土はやや軟質で、連続しているが、一部境界が不明瞭で直線性に乏しいため、変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、断層ガウジの特徴が認められなかった。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された明赤灰色粘土は、その特徴から変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	-	-

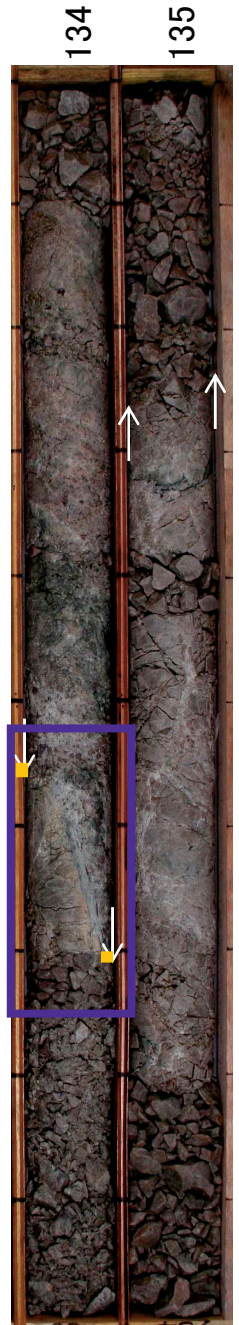
\*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度133.38～133.40mの「粘土状」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。  
 ・深度133.40～133.64mの「角礫質粘土状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。  
 ・深度133.64～134.77mの「粘土混じり角礫状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は一部の割れ目沿いに局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから力タクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 133.38～134.77m：破砕部
- 133.38～133.40m：粘土状部 (Hc-1) 傾斜73°で幅6～12mmの明緑灰色の軟質粘土。礫は含まない。
- 133.40～133.64m：角礫質粘土状部 (Hb) 上端75°、下端40°の幅1mmの白色の軟質粘土で囲まれる。径1～7cmの花崗斑岩の軟～硬質礫を50%以上含む。基質は灰白～明緑灰色の軟質粘土。
- 133.64～134.77m：粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°、下端傾斜不明。傾斜10～30°と傾斜55～70°の割れ目や低密着割れ目が概ね0.1～2cm間隔で分布し、割れ目間を灰白色の軟質粘土が幅1～5mmで各割れ目に付着～脈状で分布する。灰褐色を呈する。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ  
 破砕部範囲※  
 ※: 写真上は白色で記載

明緑灰色粘土の連続性・直線性が良い



青枠部拡大